

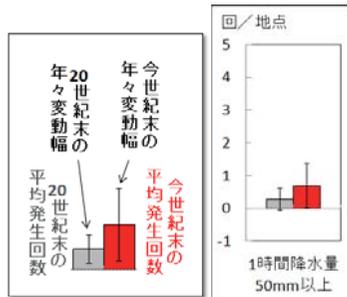
山口県の気候のこれまでとこれから

※本リーフレットでは、現状の対策のままで温室効果ガスの排出が続いた場合の予測結果を掲載しています。

これから
(将来予測)

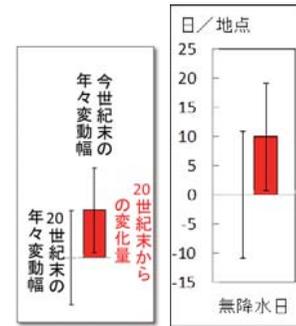
**今世紀末には大雨の回数が2倍以上、
雨の降らない日も増加**

下関市 (下関地方気象台において観測した値)	20世紀末の非常に激しい雨の年間発生回数 (1980~1999年の平均)	20世紀末の雨の降らない日の年間日数 (1980~1999年の平均)
	0.1回	253.4日



非常に激しい雨の年間発生回数の変化
(山口県)

灰色の棒グラフは20世紀末、赤色の棒グラフは今世紀末における1地点あたりの年間発生回数。細い縦線は年々変動の標準偏差。



雨の降らない日の年間日数の変化
(山口県)

赤色の棒グラフは今世紀末と20世紀末との差、細い縦線は年々変動の標準偏差(左:20世紀末、右:今世紀末)

雨の降り方が激しくなる一方で、降らない日も増えることから、
雨の降り方が極端化することが見込まれます。



⇒洪水、浸水、土砂災害などの
自然災害リスクの増大と水不足
のリスクの増大が懸念されます。



気候のこれから(将来予測)の詳しいデータは、気象台ホームページの「九州・山口県の地球温暖化予測情報第2巻」に掲載していますので、是非ご活用ください。
<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyu/report/report.html>

※「非常に激しい雨」とは、1時間降水量50mm以上の雨(滝のように降る雨)を指します。
※「雨の降らない日」とは、日降水量が1mm未満の日(無降水日)を指します。

下関地方気象台
平成30年10月発行

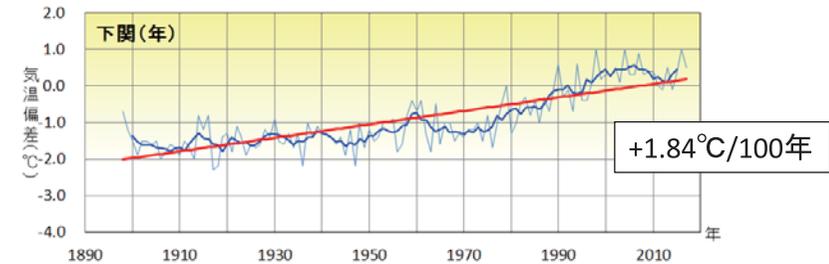
このリーフレットは印刷用の紙へリサイクルできます。

これまで
(長期変化傾向)

山口県でも地球温暖化が進行中

地球温暖化による影響は、自然災害、健康、農林水産業、水資源、生態系といった様々な分野に及ぶとともに、地域の気候特性によって現れ方が異なるため、県や市町ごとの地域や分野に応じた適応が求められます。

本リーフレットが、地球温暖化の影響を回避・軽減するための対策(適応策)や、地球温暖化に関して理解を深めるための基礎資料として広く活用いただければ幸いです。



下関市の年平均気温の経年変化

青の細線:各年の年平均気温の基準値(1981~2010年の30年平均値)からの偏差、
青の太線:5年移動平均、赤の直線:長期変化傾向。統計期間:1898~2017年。



九州・山口県の非常に激しい雨の年間発生回数の経年変化

青の棒グラフ:各年の年間発生回数(九州・山口県の現在のおおよそのアメダス地点数である180地点あたりに換算した値)、赤の直線:長期変化傾向。統計期間:1976~2017年。

①1976~1985年の平均年間発生回数	71.2回
②2008~2017年の平均年間発生回数	106.9回
②/①	約1.5倍



気候のこれまで(長期変化傾向)の最新データは、気象台ホームページの「九州・山口県の気候変動監視レポート」に掲載していますので、是非ご活用ください。
<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyu/report/report.html>

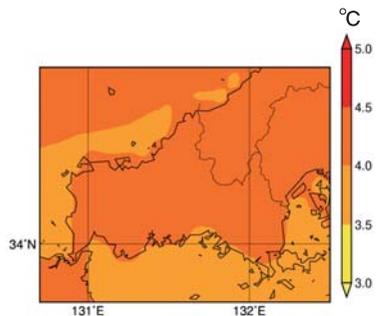


下関地方気象台(下関市竹崎町4-6-1 下関地方合同庁舎 電話:083-234-4007)

※本リーフレットでは、現状の対策のままで温室効果ガスの排出が続いた場合の予測結果を掲載しています。

これから
(将来予測)

今世紀末には気温が4℃以上上昇



年平均気温の変化(山口県)

今世紀末と20世紀末との差。特定の狭い領域の変化傾向にとらわれることなく、山口県の平均的な変化傾向を把握してください。

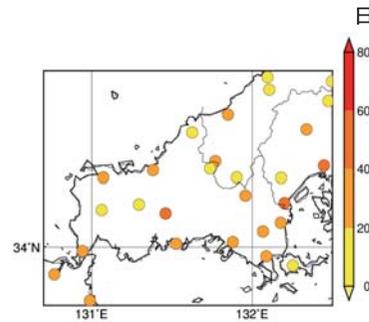
※山口市は観測所移転の影響を補正しています。

	下関市	山口市
①20世紀末の年平均気温 (1980～1999年の平均)	16.4℃	15.0℃
②年平均気温の将来変化 (今世紀末と20世紀末との差)	4.1℃上昇	4.1℃上昇
①+②	約21℃	約19℃

※鹿児島県西之表市(種子島)の年平均気温の平年値19.6℃(1981～2010年の平均)に近い値になることに相当します。

これから
(将来予測)

今世紀末には猛暑日が30日以上に



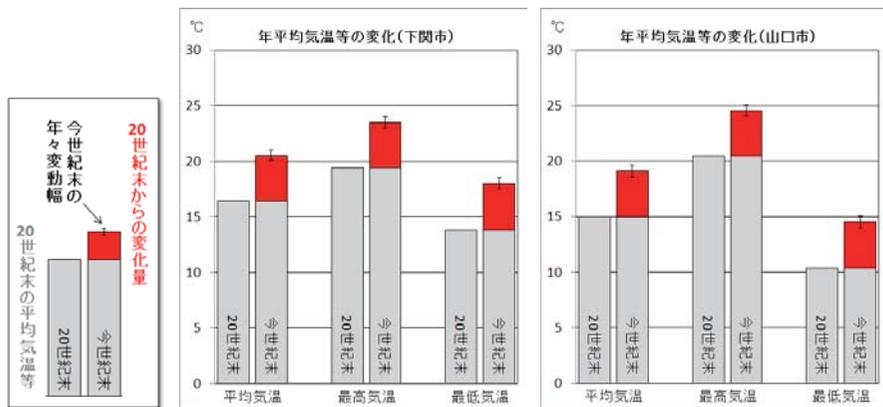
猛暑日の年間日数の変化(山口県)

今世紀末と20世紀末との差

※山口市は観測所が移転し、単純比較が難しいため、20世紀末の猛暑日日数は示していません。

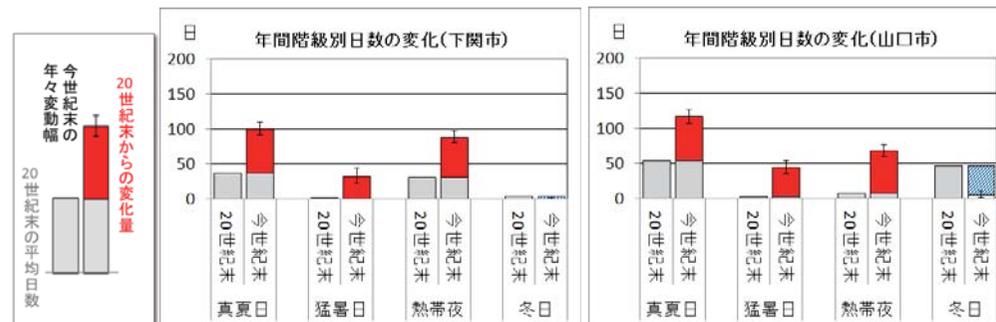
	下関市	山口市
①20世紀末の猛暑日日数 (1980～1999年の平均)	0.3日	
②猛暑日日数の将来変化 (今世紀末と20世紀末との差)	32日増加	41日増加
①+②	約32日	

※山口市の猛暑日日数の平年値 5.9日
(1981～2010年の平均)



年平均気温等の変化(下関市、山口市)

灰色の棒グラフは20世紀末の年平均気温等の平均値。赤色の棒グラフは今世紀末と20世紀末との差。細い縦線は今世紀末の年々変動の標準偏差。



猛暑日等の年間日数の変化(下関市、山口市)

灰色の棒グラフは20世紀末の年間観測日数の平均値。赤色または青色の棒グラフは今世紀末と20世紀末との差で、赤は増加、薄い青は減少。細い縦線は今世紀末の年々変動の標準偏差。



⇒熱中症のリスクの増大が
懸念されます。

⇒生態系等への影響が懸念されます。



※「現状の対策のままで温室効果ガスの排出が続いた場合」とは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第5次評価報告書で用いられたRCP8.5シナリオを指します。
※「20世紀末」とは1980～1999年、「今世紀末」とは2076～2095年を指します。



気候のこれから(将来予測)の詳しいデータは、気象台ホームページの「九州・山口県の地球温暖化予測情報第2巻」に掲載していますので、是非ご活用ください。

<https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/kaiyo/chikyuu/report/report.html>

※「真夏日」とは最高気温が30℃以上の日、「猛暑日」とは最高気温が35℃以上の日を指します。
※「熱帯夜」とは最低気温が25℃以上の日、「冬日」とは最低気温が0℃未満の日を指します。